

平成 22 年度  
広島市教育センター

## 一人一人の気づきを質的に高める生活科学学習指導の研究 －身近な人々と伝え合い交流する活動を通して－

広島市立東浄小学校教諭

奥村 鯉都子

### 研究の要約

今回の学習指導要領の改訂では、言語活動の充実が重視されている。生活科においても内容（８）「生活や出来事の交流」が新設され、気づきの質を高める学習指導の進め方として「伝え合い交流する場を工夫する」ことの重要性が挙げられている。

そこで、「他者と伝え合い交流する場」を授業の中に効果的に設定した単元「こんなにすてきな町なんだ」を構想すると共に単元における見取り表を作成し、研究授業を通してその有用性を検証した。

研究授業では地域の方々と伝え合い交流する活動を進める中で、児童は相手意識をもち、気づきの視点を広げたり深めたり、さらなる交流への動機付けを行ったりしていった。またその変容を見取り表を参考に児童の手紙等から見取ることができた。

キーワード：気づきの質的な高まり、生活や出来事の交流  
町探検、地域の方々、見取り

## I 問題の所在

今回の学習指導要領の改訂では、言語活動の充実が重視されている。生活科改訂の趣旨には、学習活動が体験だけに終わっていることや活動を通しての気づきを質的に高める指導が十分でなかったことの課題が挙げられている。改善の具体的事項では、身の回りの人々とのかかわりや自分自身のことについて考えるために、活動や体験したことを振り返り、自分なりに整理したり、そこでの気づき等を他の人たちと伝え合ったりする学習活動を充実させること。その際、活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視することと述べられている。

学習指導要領解説生活編では、内容(8)「生活や出来事の交流」が新設され、気づきの質を高める学習指導の進め方として「伝え合い交流する場を工夫する」ことの重要性が挙げられている。

表1 学習指導要領解説生活編 内容(8)

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
---

内容の取扱いについての配慮事項(2)としては、「具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫すること」が示された。気づきの質を高めるには、対象と多種多様にかかわり、そこで気付いたことを互いに言葉や身体で表したり、他者との間で伝え合ったりする言語活動を充実させることが課題になる。

そこで、本研究は児童の身近な人々と伝え合い交流する場に焦点を当て、テーマを設定した。

## II 研究の目的

気づきの質的な高まりを促すための効果的な「他者と伝え合い交流する場」の設定について、第2学年「こんなにすてきな町なんだ」での単元を構想し、その有効性を検証する。

## III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定
- 3 研究授業の計画と分析の方法
- 4 研究授業と結果の分析・考察

## IV 研究の内容

### 1 研究主題に関する基礎的研究

#### (1) 気づきを質的に高めるとは

学習指導要領解説生活編は、生活科でねらう児童の気づきには、知的な側面をもつ気づきと情意的な側面をもつ気づきがあると述べている。

知的な側面をもつ気づきとは、例えば昔遊びのけん玉が上達するコツを伝え合う時、子どもたちが教え合う中で、伝える内容や言葉が子どもなりの気づきから誰にでも伝わる言葉へと一般化されていく気づきである。

情意的な側面をもつ気づきとは、例えば家族とのお手伝いを通して家族からの愛情や家族への愛着に気付くような、対象に対する個人の思いやこだわりが広まったり深まったりする気づきである。

本研究では、伝え合い交流する活動の中で見られる児童の情意的な気づきを取り上げ、その質的な高まりをねらうことにする。

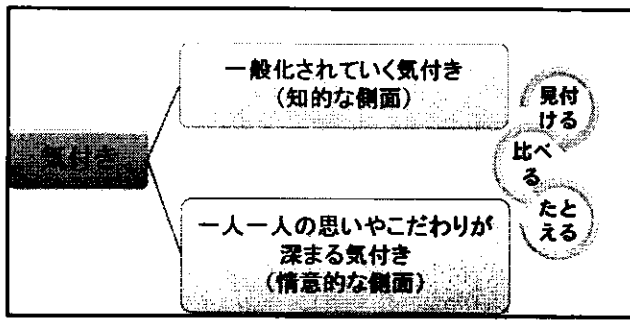


図1 生活科における気付き

(2) 場の工夫

田村学氏によると、気付きの質を高める学習指導の進め方において、「振り返り表現する機会を設ける」「伝え合い交流する場を設ける」「試行錯誤や繰り返す活動を設定する」「子どもの多様性をいかす」ことを挙げている。

本単元では、児童の生活圏である学区を対象として繰り返しかかわる場の工夫を取り上げたい。児童の学習活動は多様であるため、気付きも多様に表れてくる。それらを交流し、振り返る場を設定することで気付きの質的な高まりをねらいたい。

(3) 活動の見取り

今回新設された内容(8)に表れる子どもの姿を、学習指導要領解説生活編から見取ると、相手意識、よりよいコミュニケーション、心のつながり、目的意識、達成感・成就感、さらなる交流への動機付けの6つに分けることができた。

相手意識は、「〇〇さん」という名前を指した記述で相手とかかわろうとする意欲である。よりよいコミュニケーションは、双方向に行き来するかかわりのよさを感じる。心のつながりは、互いのことを理解し自分の思いを伝える姿。目的意識は本気になって聞き取ろうとする姿。達成感や成就感は受け入れられたことや伝えたことへの喜び。さらなる交流への動機付けは次の交流への意欲の姿ととらえることとした。

これらをもとにして見取り表を作成して子どもの変容を見取ることにした。

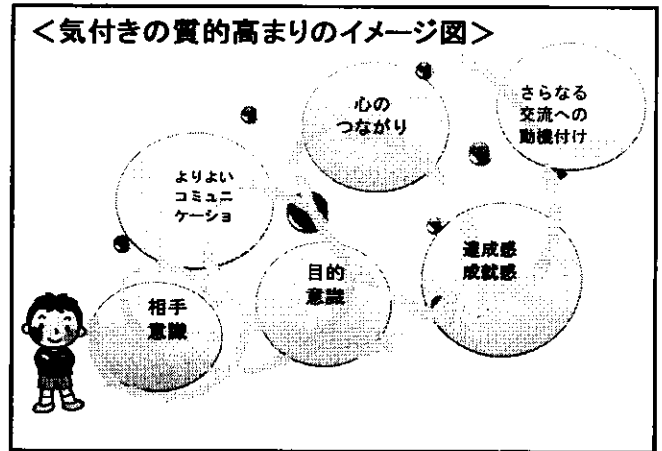


図2 気付きの質的な高まりのイメージ図

2 研究仮説の設定

伝え合い交流する活動において、児童が身近な人々とじっくりと繰り返しかかわる場を設定すれば、児童は一人一人の気付きを質的に高めることができるであろう。

3 研究授業の計画と分析の方法

(1) 研究授業の計画

研究仮説を実証するために、児童が身近な人々とじっくりと繰り返しかかわる場を設定した単元構想図を作成した。(表2)

表2 単元構想図

学 習 活 動	伝え合い交流する活動	
	子ども同士で	地域の人々と
町に雪がやってきた 〇町に雪がやってきた	振り返り・確約の視点の共有	視点の明確化
〇たんけん人のじゅんぴをしよう	聞きたいことを話し合おう	気付き・かかわりの楽しさ
〇雪見つけたんけん		雪見つけたんけんに行こう!
すてきをつたえよう 〇すてきをつたえよう	興味深かったね	
〇お手紙でもういちどたずねよう	グループで話し合おう	お手紙でもう一度たずねよう
〇ほっぴょうのじゅんぴをしよう	準備をしよう	相手意識・目的意識をもって
〇町のすてきをつたえよう (発表会)	町のすてきをつたえよう	気付きの共有
ありがとうをつたえよう 〇ありがとうをつたえよう (本時1)	ありがとうを伝えよう	達成感・成就感
〇こんなにすてきな町なんだ (本時2)	こんなにすてきな町なんだ	振り返り・交流するよさ

本小単元では、児童の生活圏におられる方々に授業の協力を依頼することで、児童が常時人々に

かかわることができるようにする。次に、地域の人々・友達と伝え合う活動を意図的に繰り返すことで、伝わる楽しさや伝えたいと考えていることを理解できる楽しさを感じ、伝え合い交流する楽しさを味わうことができるようにしたい。

じっくりと繰り返しかかわる場を、探検の他に発表会のために質問をする「お手紙でもういちどたずねよう」、発表会の報告を兼ねた「ありがとうをつたえよう」、単元の振り返り「こんなにすてきな町なんだ」と設定し、地域の方々との交流を振り返り価値付ける活動を行うこととした。

地域の人々とのかかわりから生まれる児童の気付きを「すてきマップ」に書き加えていくことで、町のすてきに気付いていく様子を可視化し、児童への意欲付けとする。さらに、手紙を活用し、自分の思いや相手の思いを形として見えるものにし、自己の気付きの意識化を図りたいと考える。

**ア 対象** 広島市立A小学校第2学年2組

**イ 期間** 平成23年1月12日～18日

**ウ 単元名** 『こんなにすてきな町なんだ』

小単元名 「ありがとうをつたえよう」

**エ 指導計画**

**表3 活動計画及び評価計画**

**表4 評価規準表**

6 単元の評価規準

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
内容	(3) 冬の町の様子に関心をもち、地域の人々や様々な場所に親しみをもち、自分なりに1年間の町探検をまとめようとしている。	(3) 地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、町探検で気付いた町のよさなどについて、自分らしい方法で表現することができる。	(3) 町の冬の自然や人々、社会、公共施設などの様子や、自分たちの生活とのかかわりに気付くとともに、町のよさに気付いている。
単元の評価規準	① 冬の自然や町、人々の生活の様子に関心をもち、自分なりの目的をもってかかわったり、体験したりしようとしている。 ② 1年間の町探検で見付けたことや気付いたこと、町のよさなどを自分なりに表現したりまとめたりしようとしている。	① 町の様子で、見付けたことや気付いたことなどを絵や言葉で表すことができる。 ② 季節の移り変わりにもともなう自然や生活の変化、町のよさなどについて自分なりの方法で表現することができる。	① 自分がくらししている町には、すてきな人がたくさん住み、すてきな場所がたくさんあることに気付いている。 ② 季節の移り変わりにもともない、自然の様子や町、自分たちのくらしが変わっていることや、町のよさに気付いている。
内容	(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合うことに関心をもち、進んで交流しようとしている。	(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動について、自分なりに考えたり、振り返ったりしている。	(8) 身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、互いに交流することのよさに気付いている。
単元の評価規準	① 自分たちの生活や地域の出来事に関心をもち、伝え合おうとしている。 ② 相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。 ③ 楽しく伝え合い、繰り返し交流しようとしている。	① 誰に何を伝えるかを考え、伝えたいことを運んでいる。 ② 相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、言葉や態度などで気持ちを表し、交流している。	① 自分のことや伝えたいことが相手に伝わる楽しさが分かっている。 ② 相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさが分かっている。 ③ 身近な人々とかかわる楽しさやよさに気付いている。

7 活動計画及び評価計画（単元 全10時間 小単元 全2時間）

単元	小単元	○学習活動 ねらい	評価
こんなにすてきな町なんだ	(3) 町に冬がやってきた	第1時 町に冬がやってきた。これまでの探検を振り返り、冬になった季節の移り変わりや「町のすてきなおと」を調べる計画を立てる。 第2時 たんけんのじゅんぴをしよう。探検で見たいところや、聞きたいことをグループで話し合い、探検の見通しをもつ。 第3時 冬まつけたんけん。探検に出かけ、地域の人とすずんがかかわる。	◇関心・態度 (3)① (行動観察・ワークシート) ◇関心・態度 (8)① (行動観察・発言) ◇気付き (3)① ◇思・表 (8)② (行動観察・ワークシート)
	(5) すてきを調べる	第1時 すてきをつたえよう。グループで探検の感想を伝え合い、交流する。 第2時 お手紙でもういちどたずねよう。もっと知りたいことや聞きたいことを手紙に書いて地域の人々にたずねる。 第3・4時 はっぴょうのじゅんぴをしよう。自分たちの伝えたい内容を、自分なりに表現したり、まとめたりする。 第5時 町のすてきをつたえよう。(発表会) 町探検のまとめを自分なりの方法で表現し、町のよさに気付く。	◇関心・態度 (8)②② (発言・話し合い・ワークシート) ◇思・表 (3)① ◇思・表 (8)① (手紙・行動観察・ワークシート) ◇関心・態度 (3)② (8)② ◇思・表 (3)② (8)② (行動観察・話し合い・発表作品) ◇気付き (3)② (8)① (発表・発言・ワークシート)
	(8) ありがとうをつたえよう	第1時 ありがとうをつたえよう。(本時1) 発表を振り返り、伝えたい気持ちや伝えたい方法を考え、お礼の気持ちを地域の人々に伝える。 第2時 こんなにすてきな町なんだ。(本時2) 1年間の町探検や発表会を振り返り、自分たちの町のよさや地域を支えている人々のよさに気付く。	◇関心・態度 (8)② ◇気付き (8)② (話し合い・行動観察・手紙) ◇関心・態度 (8)③ ◇気付き (8)③ (発表・行動観察・振り返りカード)

(2) 分析の方法

見取り表は、気付きの質を高めるイメージ図で述べた、6つの観点をもとに、小学校学習指導要領生活編での記述内容、育てたいものの見方・考え方を挙げ、具体的な児童の記述を予想し見取りの観点に基づいて整理し作成した。(表5)

そして、この見取り表をもとに、単元構想図(表2)の「お手紙でもういちどたずねよう」「ありがとうをつたえよう」で児童が書いた手紙の一文ごとにあてはまる観点を見取り、分析を行った。

そしてその変容を、「気付きの視点の広がり」「気付きの視点の深まり」「さらなる交流への動機付け」の視点から読み取り、児童一人一人の気付きの質的な高まりを見取ることにした。

表5 見取り表

小単元「ありがとうをつたえよう」見取り表

観点	小学校学習指導要領解説生活編による記述	内容	育てたいものの見方・考え方	児童の記述例
相手意識	・だれとでも仲良く生活できるようにすること ・相手意識が生まれ ・相手の気持ちを考えよう	・〇〇さん ・〇〇 〇〇さん (フルネーム)	・人とのかわりを楽しむこと ・相手の立場に立つたふるまい方 ・相手の意識した活動 ・地域の方々への楽しみ・愛着	・〇〇 〇〇さんへ ・〇〇さんは～ ・元気でお仕事がんばってください
コミュニケーション	・様々な人々と触れ合うこと ・情緒が一方向ではなく、東方向に行き来すること ・よりよいコミュニケーションを通して	・手紙のよさに関する記述 ・お手紙をもらって～ ・お手紙のおかげで～	・身近な人々とかわかることの楽しさが分かる ・進んで交流することができる ・双方向の情緒(手紙)の行き来よさが分かる ・相手への適切なかわり方	・〇〇さんからお手紙が来てうれしかった。 ・手紙のおかげで～ ・自分のことを知る～しました
心のつながり	・互いの交流を豊かにすること ・互いの関係を一層豊かに ・互いのことを理解し合ったり心を通わせたり ・互いのことを理解しようと努力し合い ・協同的な関係を築くこと	・伝えたいこと・思いについての記述 ・〇〇さんのすてき	・互いのことを理解しようと努力する ・本気になって聞き取ろう ・伝えようとする ・互いの気持ちと心のつながりが豊かになる楽しさ ・自分の思いを伝えようとする	・〇〇さんの～なところがスチキだと思いました。 ・〇〇さんの思い ・〇〇さんは～だと思えます。 ・やさしく教えてくれて ・忙しいのに～ ・自分の思いを語る
目的意識	・分かりやすく伝えよう ・相手意識・目的意識 ・伝えたり・聞きしたり ・本気になって聞き取ろうとするもの ・伝えたいという強い思いや願いを児童が心に抱くよう	・発表会の内容に関するもの ・質問	・地域の人や場所とのかわり分かる ・発表会で伝えたい内容を見つけること	・～ということがわかりました。 ・教えてください。質問① ・いろんなことがわかりました。
達成感	・かわかることの楽しさが興味として分か ・そのうれしい気持ち ・自分が受け入れられたことへの喜び ・児童にとって大きな達成感や成就感につながる	・聴いてくれたことへの喜び ・交流できたことへの喜び	・お手紙の楽しさが興味として分かること ・受け入れられたこと・伝えられたことへの喜び ・発表会での達成感・成就感	・たんけんして楽しかった。 ・～というみんなは～でした。 ・発表できてうれしかったです。 ・～に行ってよかったです。 ・教えてくれたので～でした。 ・役に立ちました。
交流を継続させるための	・もっと伝えたいという意欲 ・さらなる交流の動機付け	・次への質問・行動	・さらに質問したいことを見つける ・次の活動への意欲を持つ ・活動への広がりをもっと伝えたい・知りた い	・聞きたいこと ・さらに生まれた質問② ・また～に行ってみたいです。 ・次は～に行ってみたいです。 ・また〇〇さんに会いに行きたいです。

4 研究授業と結果の分析・考察

(2) 授業実践の概要

今回の見取りは、1回目の手紙を活動計画の第2次第2時「お手紙でもういちどたずねよう」で、2回目の手紙を第3次第1時「ありがとうをつたえよう」で行った。そして、単元の振り返りである第3次第2時では、振り返りカードでの記述でも児童の変容を見取ることにした。

(2) 見取りの分析と考察

ア クラス全体としての変容

クラス全体での手紙の記述内容を見取り表を本にして見取り、その内容をグラフ(図6)に表した。

図中の左側は探検後に行った「お手紙でもういちどたずねよう」での1回目の手紙、右側は地域の方からお返事が来て発表会を終えた「ありがとうをつたえよう」で書いた2回目の手紙の記述である。

1回目は発表会に向けてのさらなる質問が多く、目的意識の項目が多くなっているのが読み取れる。

2回目は、相手意識やよりよいコミュニケーション、地域の方との心のつながりを感じた文章、達成感や成就感、さらなる交流への動機付けも合わせて数値が高くなっている。目的意識については、数値は減っているが、内容が質問だけではなく、分かったこと具体であったり、さらなる質問だったり質的な高まりのある文章が多かった。

全体としても、気付きの質的な高まりを感じることができたと読み取ることができる。

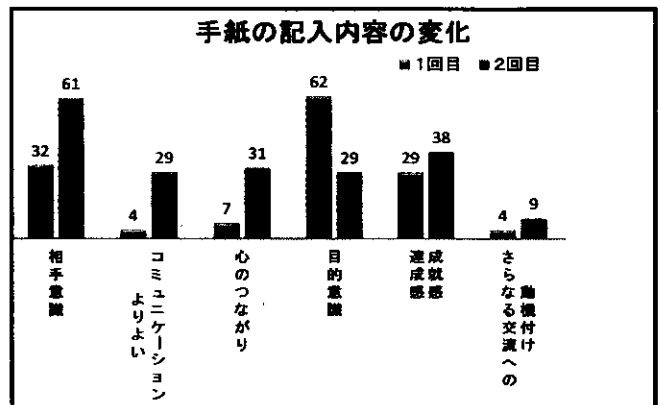


図6 手紙記入内容の変化

## イ 気付きの視点が広がったA児の場合

⑩ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
⑨  
⑧ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
⑦ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
⑥ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
⑤ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
④ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
③ ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
② ○ ○ ○ ○ ○ さんへ  
① ○ ○ ○ ○ ○ さんへ

町たんけんの人にいろいろ教えて  
くださったありがとうございます。  
おかげで、○○さんが教えてくれ  
たことをみんなに言えたので役に立  
てたと思います。  
次に会った時もいろいろ教えてくだ  
さい。  
あと、もう一つはかぜをひかないよ  
うに野菜をいっぱい食べます。  
○○さんもかぜをひかないように  
がんばってください。  
あと、○○さんが言ってくれた心  
のやさしい子どもになります。  
○○さんも心のやさしいおじいさ  
んになってください。  
ぼくもがんばります。  
A より

図3 A児の手紙

### (7) 手紙の分析

これは、児童が手紙を通して、交流するよさを感じ、気付きの視点が広がったことが読み取れた手紙である。

学校近くの畑で野菜を育てているDさんを訪れたA児は、九百個もあるタマネギや大きな大根におどろきを感じて帰ってきた。そして、質問の手紙に、タマネギの数について分かったこととお礼の手紙を書いた。すると、Dさんから、お返事が届き、Dさんが体によいと思う野菜のことや我が町の子どもたちへの思いを知ることになる。発表会を終え、そのお礼の手紙を見ると、①のフルネームをこれまでより力を込めて書くことができている。文中にも5回「○○さん～」と書くことができている。

### (イ) 考察

これは、相手を意識したかわりの第一歩であり、親しみの表れであると読み取れる。「○○さん～」とDさんを意識した文が書かれていることでも、A児のDさんに対する親しみ、相手意識の高まりを感じることができる。③の「おかげで」、というのは、返事をくれたDさんのおかげでという意味で、A児が手紙で交流したよさを感じ、発表会でそれらを伝えたことへの達成感や成就感を見取ることができる。そして、④次に会った時も教えてほしいと、交流したい意欲を伝えることができている。また、返事の手紙の内容に書いてあったことを引用し、⑤⑦かぜを引かないように野菜を食べることや、高齢者に優

しい子どもになってほしいという願いを受けて、心のやさしい子どもになりますと書いてあるように、手紙での交流を繰り返すことで、情報を行き来させ、交流を豊かにさせる文章を書くことができるようになったと読み取ることができる。⑥⑧にあるように、Dさんもかぜを引かないようにや、Dさんも心のやさしいおじいさんに、と自分の思いや相手とのつながりを大切にしていることがうかがえる文章を書いていることでも、A児の交流に対する気付きが感じられる。少ない文章ではあるが、文中にこれほどの心・思いを込めて、A児はDさんにお礼の気持ちを伝えようとしている。その後彼は、単元の振り返りで「Dさんいがいの人にも会いたくなりました。」と話しており、交流をさらに広げようとすることができたと思取ることができる。

このように、気付きの視点が広がった変容を見せる児童の手紙は、このほかにも数例見ることができた。

## ウ 気付きの視点が深まったB児の場合

⑩ △ △ △ △ △ さんへ  
⑨  
⑧ △ △ △ △ △ さんへ  
⑦ △ △ △ △ △ さんへ  
⑥ △ △ △ △ △ さんへ  
⑤ △ △ △ △ △ さんへ  
④ △ △ △ △ △ さんへ  
③ △ △ △ △ △ さんへ  
② △ △ △ △ △ さんへ  
① △ △ △ △ △ さんへ

お手紙どうもありがとうございました。  
とても役に立ちました。  
うれしかったです。  
はっぴょう会で、△△△△△さんのいいところは、えがおがすてき、と書きました。  
わたしも、△△△△△さんのようにお花が大好きです。  
パンジーの育て方をおしえていただき、ありがとうございます。  
わたしのしょうらいのゆめは、お花屋さんです。  
だから、ゆめが△△△△△さんといっしょでした。  
B より

図4 B児の手紙

### (7) 手紙の分析

これは、児童が手紙を通して、気付きの視点が深まったことが表れた手紙である。

それまで、探検に意欲的ではなかったB児だったが、学校近くのガーデニングの店を見学した後、花の鉢がたくさんある店の庭や、チョコレートコスモスという名前の花に出会い、放課後店を訪れ、花の鉢を母親と購入した。この行動をクラスみんなに知らせたことで、振り返

りカード等の記述が増えた。探検後のお礼の手紙の後、Eさんから2年生が育てているパンジーの育て方やチョコレートコスモスに関する情報、花や緑を大切にしてくださいという思いを込めた4枚にわたるお返事をもらうことができた。発表会では2年生が今育てている花についての役立つ情報を発表することができ、③とても役に立ちました。④うれしかったです。と記述している。

#### (4) 考察

B児の手紙の③④の記述より、B児は、達成感や成就感を感じていることが読み取れる。⑤では、Eさんへの親しみの表れ、Eさんのすてきをみんなに知らせたことを伝え、⑧の言葉にあるように、自分自身のことも加え、⑦パンジーのお礼へと手紙のつながりをもたせている。さらに、⑧私の夢はお花屋さんです。⑨だから夢がEさんと一緒です。と自分の思いやあこがれを伝え、心のつながりを表しているから見取ることができる。

その後B児は、単元の振り返りで「わたしは、Eさんのガーデニングの店に行くととてもよかったです。」と交流するよさも振り返ることができた。

この他にも、地域の方々と交流する視点が深まっていく手紙をたくさん見ることができた。

#### エ さらに交流への動機付けが行われた C児の場合

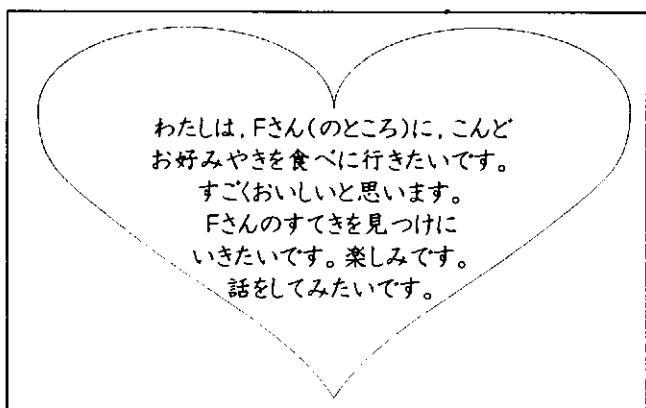


図5 C児の振り返りカード

#### (7) 振り返りカードの分析

C児はコンビニエンスストアを探検した。単元の振り返りの際、Fさんという探検していない地域の方を取り上げ、図5のような文章を書いた。

#### (4) 考察

これは、C児が、クラス全体で地域の方々のすてきを出し合う中でお好み焼き屋さんのFさんとの交流が気になり始めたようである。これはクラスでの交流の中から、地域の方々とかわるよさを感じ、さらなる交流への動機付けを行うことができていると見取ることができた。

## V 研究のまとめ

本研究では、じっくりと繰り返しかかわるための伝え合い交流する単元構想図を作成したことで、子どもたちへの働きかけや手だてが明確になった。また、見取り表を作成し、手紙を分析することで伝え合い交流する子どもたちの変容を見取るために有効だったのではないかと考えられる。

子どもたちは、地域の方々と手紙を通して繰り返しかわり、伝え合い交流することで気付きの視点を広げ、深め、さらなる交流への意欲をもつことができた。

今後は、単元計画のよさを活かし、もっと地域への親しみを感じ、伝え合い交流するよさを感じることができるように、町たんけんを1年間を見通した大きなカリキュラムとしてデザインすることが課題として挙げられる。

そして、見取り表で測れない気付きの質的な高まりと見取り表の関係を見直し、見取り表のさらなる改善を行っていきたい。

#### 参考文献

- ① 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』 日本文教出版、平成20年
- ② 田村 学『今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり』 明治図書、2010年